

## 特別支援教育に関する情報サイト

各ホームページから特別支援教育に関する情報や指導・支援のためのガイドブック等をダウンロードすることができます。

〔文部科学省〕 <http://www.mext.go.jp/>

〔国立特別支援教育総合研究所〕 <http://www.nise.go.jp/>

- インクルーシブ教育システム推進センター
- 発達障害教育情報センター
- インクルーシブ教育システム構築支援データベース（インクルDB）
- 支援教材ポータル

〔千葉県教育委員会〕 <http://www.pref.lg.jp/kyouiku/>

- 合理的配慮事例集～小中学校の通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒の事例を中心に～（平成29年3月）
- 学校における合理的配慮の提供について（平成28年3月）
- 「個別の教育支援計画」作成の手引き（平成27年3月）
- ～中・高等学校における発達障害の可能性のある生徒のための～すべての教員に求められる特別な教育的支援Q&A（平成28年3月）
- 早期相談支援リーフレット（平成28年3月）
- （幼稚園・保育所向け）発達障害の可能性のある子どもへの支援Q&A
- 保護者向け早期相談支援Q&A（家庭での子育てに関する情報）（平成28年3月）
- 保護者向け早期相談支援Q&A（就学に関する情報）（平成27年6月）

〔千葉県総合教育センター〕 <http://ice.or.jp/~i-sose/>

- どの子ども「わかる」「できる」をめざす授業や学級づくり ユニバーサルデザインの視点を踏まえた支援の工夫（平成27年3月）
- 高等学校における学びを支えるための支援ガイドブック（平成24年3月）
- LD児等の行動兆候チェックリスト（小・中学生用）
- 通常の学級における特別な教育的ニーズのある子どもへの支援（平成22年3月）
- 自閉症のある子どもへの支援 実践事例集（平成21年3月）
- 交流及び共同学習実践ガイド（平成21年3月）
- LD・ADHD通級指導教室における学習プログラム（平成21年3月）
- ガイドブック 自閉症のある子どもへの支援（平成20年3月）

## アセスメントに利用される諸検査等

検査にあたっては、その実施方法の十分な習熟と、発達心理学を中心とした幅広い素養と豊かな指導経験に基づく結果の解釈が必要である。したがって、実施と解釈にあたっては、信頼できる経験者のもと経験を積むなど研修がことが大切である。また、保護者や場合によっては子どもに対して、検査実施の目的と検査結果の説明を行うことが求められる。

| 検査法   | 用途・特徴等  |
|---|---|
| <b>新版S-M社会生活能力検査</b><br>適用年齢：乳幼児～中学生<br>所要時間：20分程度                                  | 社会生活に必要な能力を、身辺自立・移動・作業・意思交換・集団参加・自己統制の6領域に分類し、質問紙として構成されている。知的能力とは独立した社会的適応能力を測定する。家庭・地域生活に関する質問も多いので、保護者と一緒に評価することが望ましい。就学指導資料として、知能検査結果と併せて示されることが多い。   |
| <b>遠城寺式乳幼児分析的発達検査法</b><br>適用年齢：0才～4才8ヶ月<br>所要時間：15分程度                               | 移動運動、手の運動、基本的習慣、対人関係、発語、言語理解の各機能ごとに検査表を使って評価する。観察と併せて、保護者から子どもの状態を聴き取りながら実施することができる。学齢児童では、発達の重い遅れがある子どもに実施されることが多い。  |
| <b>新版K式発達検査2001</b><br>適用年齢：0才～成人<br>所要時間：30分程度                                     | 子どもの発達の水準や偏りを「姿勢・運動」「認知・適応」「言語・社会」の3領域から、年齢段階毎に配列された検査項目に対する被験者の反応を観察し、評価する。結果は、領域別と全領域について、発達年齢と発達指数で示される。医療機関等での心理判定によく利用される。   |
| <b>田中ビネー知能検査V</b><br>適用年齢：0才～成人<br>所要時間：30～60分程度                                    | 年齢段階毎に、言語、動作、記憶、数量、知覚、推理、構成などの内容の項目が配列され、精神年齢(MA)、知能指数(IQ)として知的発達水準を測定する。診断的に用いるには、各問題毎の可否の傾向やWISC-III、IV等の検査結果とのつき合わせするなど総合的に分析し、解釈していくことが必要である。教育、医療など様々な分野で幅広く活用されている。   |
| <b>WISC-IV知能検査</b><br><b>※WISC-IIIの改訂版</b><br>適用年齢：5才～16才11ヶ月<br>所要時間：45～60分程度      | 全体的な認知能力を表す全検査IQ(FSIQ)と、4つの指標得点(言語理解・知覚推理・ワーキングメモリー・処理速度)を算出します。全検査IQは補助検査を除いた10検査の評価点合計から算出する。全15の下位検査(基本検査：10、補助検査5)で構成されており、10の基本検査を実施することで、5つの合成点(全検査IQ、4つの指標得点)が算出される。それらの合成得点から、子どもの知的発達の様相をより多面的に把握できる。合成得点、下位検査評価点に加えて、7つのプロセス得点も算出でき、子どもの検査結果についてより詳しい情報が得られる。 |
| <b>K-ABC 心理・教育アセスメントバッテリー</b><br>日本版 KABC-II<br>適用年齢：2才6ヶ月～12才11ヶ月<br>所要時間：30～60分程度 | K・ABCは、14の下位課題から構成されている。各課題には適用年齢が定められており、年齢によって最高で11の下位課題が用意されている。また、認知処理過程尺度(心理尺度)と習得度尺度(教育尺度)の2つの独立した尺度からなるアセスメントバッテリーであり、両方面から子どもの全体像を詳しく分析できる。   |

## 学習指導案の形式【参考例】

〇〇部〇年 〇〇科学習指導案

日時 〇月〇日〇校時  
場所(学級) 〇〇〇  
指導者 〇〇 〇〇(T1)  
〇〇 〇〇(T2)

### 1 単元(題材, 教材)名

○学習内容がイメージしやすい表現を工夫する

単元:学習内容の有機的なまとまり。学習に順序性がある。  
題材:学習活動の最小のまとまり。

### 2 単元(題材, 教材)設定の理由

○学習指導要領の位置づけや重点を置く指導事項等について記入する。  
○設定した授業の中で、育てたい力などを明確に記入する。

○「児童(生徒)観」「指導観」「単元(題材,教材)観」等の項立てで記入する場合がある。

#### 〔児童(生徒)観〕

- ・児童生徒の学年, 性別, 学級の全体的な実態
- ・本単元に関わる学習の既習状況やその様子, 日常生活の経験や様子
- ・既習学習からの現在の学習状況や課題
- ・題材への関心・意欲・態度等

#### 〔単元(題材)観〕

- ・取り上げる単元(題材)の価値や社会的意味, その性格や特徴, 教材を選んだ理由
- ・既習学習や現在の課題との関連

#### 〔指導観(指導の工夫)〕

- ・指導者の指導についての考えや意図, 具体的な指導方法・支援の手立て
- ・教材教具の工夫

#### <記入のポイント>

- ①これまで児童生徒(学習集団等)は, どのような学習をしてきたのか。そしてどのような力を身に付けてきたのか(年間指導計画の系統性・他教科との関連)。
- ②本単元(題材)の学習で, どのような力を身に付けさせようとしているのか。
- ③ねらいとする力を身に付けるために, どのような学習活動をどのような流れで進めていくのか。
- ④学習内容や教材の特性に関わって留意すべきことは何か。
- ⑤本単元で身につけた力を, どのように発展・深化させていくのか。

### 3 単元(題材, 教材)の目標

- ・児童生徒の実態に照らし合わせ, 単元(題材, 教材)全体の目標を示す。
- ・目標は主目標と具体的目標に分けて示す場合もあれば, 主目標だけで示す場合もある。
- ・目標は児童生徒の立場で評価可能な目標とする。

### 4 指導計画

- ・目標を達成するための学習活動をどのような順序で指導していくのかを示す。
- ・単元(題材, 教材)全体の指導内容を小単元に区分したり, まとまりごとにくぶんしたりして時間配分を示す。
- ・指導計画全体から, それぞれの時間での指導のねらいを示す。
- ・本時の指導が単元のどこに位置しているのかも明示する

## 5 本時の指導

### (1) 本時の目標

- ・ 児童生徒(個々で記す場合もある),グループの本時の目標を示す。
- ・ 本時の学習で身に付けたい力をどのような活動を通して身に付けていくのかを簡潔に示す。
- ・ 単元目標との関連も明確に示す。

### (2) 本時の展開

| 時配 | 学習活動及び内容<br>(児童生徒の活動)  | 指導上の留意点<br>(支援)   | 備考                 |
|----|--|---|--------------------|
|    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学びの主体は児童生徒である。児童生徒が自ら学び自ら活動するように学習活動等を組織する。使役語(～させる, ～せる)での記入はしない。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>〔導入の段階〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の経験や既習の知識を理解したり, 児童生徒の興味関心などと呼びおこしたりする学習の動機づけを工夫する。</li> <li>・ 児童生徒に問題点を確認し, なぜだろうという疑問や調べてみよう, 作ってみようという意欲がおこるようにする。</li> </ul> <p><b>〔展開の段階〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒各自が十分思考できるよう工夫する。</li> <li>・ 予想される児童生徒の疑問や発問の中で, どのような内容を意図的に取り上げようとするか, 明らかにしておく。</li> <li>・ 学習が展開する契機となるような教材や資料をどこで提示するか考えておく。</li> <li>・ 児童生徒の学習活動が連続的に進められるように工夫する。</li> </ul> <p><b>〔まとめの段階〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1時間の学習の成果をまとめて整理するよう工夫する。</li> <li>・ どこまでわかり, 何が課題として残ったか明らかにする。</li> <li>・ 次時の予告, 家庭学習, 簡単な評価なども行うようにする。</li> </ul> </div> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○あらかじめ留意する事項を記入する。</li> <li>・ 必要な場面での教師の助言,</li> <li>・ 複数の教師で指導する場合は, それぞれの役割を明確にする。</li> <li>・ 児童生徒個々の学習活動で想定される困難さへの留意点。</li> <li>・ 教具や資料の扱い方について。</li> <li>・ 安全面, 衛生面等への配慮。</li> <li>・ 複数の教師で指導する場合は, それぞれの役割を明確にする。</li> </ul> | 教材・教具<br>道具,遊具,資料等 |

## 6 評価

- ・ 目標に対する評価規準(何を評価するか), 評価基準(どれだけ達成したか)を踏まえた評価項目を示す。
- ・ 教師側に対する評価についても明記する。
 

|  |  |
|--|--|
| (例) ・ ねらいは達成されたか(適切であったか)<br>・ 学習内容と分量や配分は適切であったか<br>・ 授業の流れや指導形態(TT等)は適切であったか | ・ 実態把握は的確であったか<br>・ 指導や支援の内容は適切であったか<br>・ 教材や教具は効果的であったか |
|--|--|

## 7 その他 ※配置図 板書計画

○ その他 学習指導案の項目例

**【指導計画】**

**〔例1〕**

4 指導計画 (○○時間)

|     | 時数 | 指導計画・目標 | 指導内容 (学習活動) |
|-----|----|---------|-------------|
| 第1次 |    |         |             |
| 第2次 |    |         |             |
| 第3次 |    |         |             |

**〔例2〕**

4 指導計画

(1) 計画を立てるに当たって

(2) 日程計画 (○○時間 本時○/○)

| 月 日 | 時数 | 主な活動内容 | 備考 |
|-----|----|--------|----|
|     |    |        |    |

**【題材に対する実態】**

|   | 題材に対する様子 | 題材のねらい | 本時のねらい | 本時のねらいに対する手立て |
|---|----------|--------|--------|---------------|
| A |          |        |        |               |

**【本時の指導】**

| 時配 |  | 支援上の留意点 |   |   |  |
|----|--|---------|---|---|--|
|    |  | A       | B | C |  |
|    |  |         |   |   |  |

**【児童生徒の様子とねらい・手立て】**

|   | 児童生徒の様子 | ねらい | 手立て |
|---|---------|-----|-----|
| A |         |     |     |

参考・引用

京都府立総合教育センター

岡山県総合教育センター

特別支援学級の授業づくりガイド

特別支援教育つうしん